

各地の話題 栗原市

集落で棚田を守る～大学生と体験交流事業～

2024年7月19日号掲載



栗原市若柳には、ラムサール条約の登録湿地である伊豆沼があり、豊かな自然と環境に調和した農業が営まれている。蓬田(よもぎだ)地区では、平成17年に若柳蓬田集落協定組織を設立。中山間地域等直接支払交付金制度を活用しながら、約19%ある農地の保全管理や棚田の景観保持を行っている。

他団体との交流も行っており、尚絅学院大学との農作業体験は今年で4年目となる。5月19日に農村地域振興について学ぶ同大学の学生7人が参加し、手植えでの田植え交流体験が行なわれた。

また、6月12日には法面や農道の草刈り作業と秋の収穫祭に向けたサツマイモとエダマメの定植を行った。当日は会員のほか、同大学准教授や宮城県職員も参加し「おいしい芋にならينよ(なりなさいよ)」と話しながら苗を植えた。

組織代表の佐藤^{ちゅういち}忠一さんは「会員の高齢化により、いつまで活動が出来るのかわからないが、少しでも長く棚田でコメを作りたい。後継者を育てながら棚田を守っていきたい」と力強く語る。

苗の定植に集まった組織会員と大学の先生、県職員



棚田の風景



【記事提供】栗原市農業委員会